



成人を代表して、櫻田隆輝さん(左)に門脇市長(右)から成人証書が授与されました。



令和元年度 仙北市成人式

誓い新たに次のステージへ

8月15日、「令和元年度仙北市成人式」が、仙北市民会館で開催されました。今年の新成人は、平成10年4月2日から平成11年4月1日までに生まれた250人。

式では、新成人の高橋裕貴さんが司会を務め、成人を代表して、櫻田隆輝さんが成人証書を受け取りました。

「誓いのことば」では、千葉健太郎さんが「これまで周りの方々に助けていただいたことを忘れずに成人としての自覚を持ち、社会に貢献していきたい」、阿部大樹さんが「現在、地元企業で働いている。社会人としての責任の大きさとやりがいを感じている。家族、友人、地域の方々に恩返しができるよう精進していきたい」、太田侑希さんが「これまでを振り返ると、一番に友人の存在に支えられてきた。今後も友人を大切に支え合い共に歩んでいきたい」と、それぞれ抱負を述べました。



「誓いのことば」を述べた千葉健太郎さん、阿部大樹さん、太田侑希さん(左から順に)。

成人式当日に出席できなかった方へ

成人証書を9月末日まで生涯学習課で保管していますので、受け取りを希望される方は下記までお願いします。
受取場所・問合せ/教育委員会 生涯学習課(角館庁舎2階) ☎43-3383

仙北市戦没者追悼式

8月8日、仙北市民会館で「令和元年度仙北市戦没者追悼式」が厳かに行われました。戦没者ご遺族の皆さまと昨年度結成した仙北市遺族連合会青年部より9人が参加し、戦争で亡くなられたご英霊のご冥福を祈りながら、献花を行いました。今回は「第53回秋田県遺族連合会大仙市・仙北市・仙北郡戦没者遺族地方大会」も同日行われ、戦後74年が経過し戦没者遺族の高齢化が進む中、次世代へ戦争の



悲惨さ、平和の尊さを語り継いでいくことを誓いました。

高齢者叙勲

このほど、高齢者叙勲受章者が発表され、元角館東小学校長の佐藤貞一さんが、教育功勞で瑞宝双光章を受章されました。

瑞宝双光章 (教育功勞)



佐藤 貞一 さん (88歳 角館町小勝田)

元角館東小学校校長
旧協和町立淀川小学校校長、角館東小学校長などを歴任し、41年間の長きにわたり、学校教育および教育行政の発展に貢献されました。

看護の仕事体験 一日看護学生



実際に体験して感想を発表する参加した高校生。

8月1日、市立角館総合病院で「一日看護学生」が開催されました。これは公益社団法人秋田県看護協会の事業の一環で、夏休み期間中の高校生を対象に、施設見学や看護体験を通して看護職に関心を持ってもらおうと実施されているものです。

この日参加したのは角館高校と大曲高校の1年生6人。入院病棟や放射線科・手術室などの見学、血圧測定やペアになっての食事介助などの体験を行い、最後に感想発表をしました。

看護師のお兄さんに憧れて自分もなりたいと参加した熊谷彩花さん(角館高校)は、「自分が考えていたよりも大変そうだなと感じた。でも、患者さんや看護師さん同士で話している時が、とても楽しそうでした。今日の体験を忘れないで立派な看護師になりたいです」と感想を述べました。

新潮社記念文学館がおくる 8月の朗読公演会

「人と技」をテーマに

8月3日、新潮社記念文学館主催の朗読公演会が開催されました。
8月25日まで開催していた「中国の職人展」にちなみ、塩野米松氏の「角館に生きる」から3人の職人を取り上げました。朗読は、新潮社記念文学館ボランティア「やさいの花」のメンバーです。
会場に訪れた来場者は、角館の職人という身近な内容に真剣に聞き入っていました。



やさいの花による朗読を聞こうと会場には約30人が訪れました。

防災知識の普及に 仙北市防災の集い

8月10日、タカヤナギワンダーモール駐車場で「仙北市防災の集い」が行われ、約120人が訪れました。

会場では写真パネル展示、地震やけむり体験、心肺蘇生1分間チャレンジ、日産車の自動ブレーキや駐車など、楽しみながら防災に興味や関心を持てるイベントとなりました。

参加者は「子どもが楽しそうだった。大人の自分も知らないことを知ることができた。」



実際に心肺蘇生を体験する参加者。

きたので参加してよかった」、「地震がくるとわかっていても怖かった。子どもは被災地を訪れたこともあるので、この地震体験を通じて、今後に生かしてもらいたい」と話しました。

防犯協会角館支部が東北管区警察局長と東北防犯協会連絡協議会長より、安全安心な地域づくりに貢献されたとして表彰されました。表彰状伝達式が7月26日、市防犯協会の通常総会にあわせて行われ、吉田慎一支部長に若月浩志仙北警察署長から表彰状が伝達されました。

角館支部は、市町村合併に伴い平成18年10月に結成されて以来、全国各地域安全運動期間や年末年始の犯罪防止期間、地域の行事・祭典などにおいて犯罪予防・少年非行防止活動、ロックパトロールなどの地域安全活動を積極的に推進しています。

同支部員は、「この表彰を糧として、更なる安全安心なまちづくりに励みたく」と話しました。

防犯協会角館支部 東北管区優良防犯団体に



東北管区優良防犯団体表彰を受賞された角館支部の皆さん。

角館の伝統芸能 ささら舞



雲巖寺で披露されたささら舞。

8月15日、角館の伝統芸能である「ささら舞」が行われました。盆行事の一つとして祖霊と神仏供養、五穀豊穡を祈り行われています。

昼の部では、雲巖寺で白岩若者会の皆さんによる白岩ささらの奉納舞が披露されました。

夜の部でも、立町ポケットパークで白岩ささらが披露されたほか、角館音頭を踊ろう会と市内小・中学生や有志の皆さんによる踊りパレードやくりっこ太鼓の演奏が行われ、会場は盛り上がりを見せました。

田沢湖・角館観光協会の安藤大輔角館支部長は「伝統行事を続けていくのが大変になってきている中で、観光振興のみならず伝統行事の保存に努めていきたい」とあいさつを述べました。

夏まつり

田沢湖駅前広場

8月15日、JR田沢湖駅前広場で「第5回田沢湖駅前広場夏まつり」が開催されました。

この催しは、こまちの会（村上陽子会長）が駅前を活性化しようと毎年行っているものです。

当日は、親子で手作りおもちゃを作るコーナーやカラオケお楽しみ会のほか、地域の伝統行事である梵天などが披露され、多くの観客を楽しませていました。



下宿梵天若者有志により披露された梵天。

卒業30周年で母校に寄贈

このたび、角館中学校（山本暢三校長）の新制第5期生で作られた卒業30周年記念行事実行委員会（能美大輔実行委員長）が、生徒の様々な作品を掲示するための展示板を寄贈しました。

これは卒業30周年を記念し、同実行委員会が同期生に呼びかけて行われたものです。

能美実行委員長は「母校への恩返しのお気持ちを込めて寄贈させていただきます」と話しました。これに対して山本校長は「生徒たちのために有効に使わせていただきます」とお礼を述べました。



左から加藤侯信副委員長、能美大輔実行委員長、山本暢三校長、同期生で同校教諭の西根義明先生。

子どもたちのために役立てて 仙北市商工会建設工業部会が大曲支援学校せんぼく校へ寄付

8月2日、仙北市商工会建設工業部会の相馬博之部会長（柳相馬組代表取締役）より大曲支援学校せんぼく校の小林司校長へ寄付金が手渡されました。

この寄付金は、市内の建設・製造業の商工会員から構成される建設工業部会の主催で開催されたチャリティゴルフ大会で、参加した会員や仙北市議会議員のご協力をいただき集まりました。

相馬部会長は「チャリティ企画を開催するのは初めてのこと。社会貢献ができた」と、小林校長は「本校を思い浮かべていただいていたうれしい。子どもたちの学習活動に関わるところに充てたい」と話しました。



相馬部会長（左）から小林校長（右）へ手渡されました。

新角館庁舎建設工事 工事の安全と完成を祈願

8月9日、仙北市新角館庁舎建設工事安全祈願祭が新庁舎建設地で行われました。

当日は、関係者など51人が出席、工事の安全と完成を祈願しました。

門脇市長は「多くの皆さまのおかげでここまでできた。施工業者様には素晴らしい仕事をありがとうございました、協力によるまちづくり、小さな



令和2年12月の開庁に向けてこれから本格的に工事が始まります。

な国際文化都市を目指す市政を実現できる拠点を作っていただきたい」と述べました。

また、同日18時30分から角館交流センターで仙北市新角館庁舎建設工事説明会を開催し、施工者である瀧神・小松・寺沢特定建設工事共同企業体から工事概要や全体スケジュール、仮設工事などの安全対策について説明が行われました。

今後は、9月から地中熱利用設備工事が始まり、令和2年3月から公用車庫棟建設工事などが始まります。

なお、仙北市新角館庁舎は令和2年10月竣工、12月開庁予定となります。工事期間中は市民の皆さまへ大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

第一生命労働組合秋田営業職支部 市立角館総合病院へ車いすを贈呈



8月1日、第一生命労働組合秋田営業職支部から市立角館総合病院へ車いすを贈呈いただきました。

第一生命労働組合では、「社会の一員として社会に役立つ活動」として「ミニニティ」「C・リレーション」「R（地域社会との交流）」に第一の頭文字「D」をつけたDCR活動を行っています。秋田営業職支部の組合員からの募金により、今回の贈呈に至りました。

村岡朋子分会長は「病院に贈呈するのは初めてのこと。病院でよく使う車いすを贈呈できたことに、大変喜んでいただいていたうれしい」、高山純子看護師長は「主に注射室で使用。背もたれが折れるので介助もしやすく、患者さんの負担も減る」と話しました。